

動物學雜誌第六拾八號

明治二十七年六月十五日

●小笠原島動物界

弘田貞守稿

前篇

余ハ大學ノ命ニ因リ小笠原島動物界研究ノ目的ヲ以テ關口柳太郎氏ヲ伴ヒ本年二月五日播磨丸ニ投シ五日間航海ノ後全月十日父島ニ着シ四月二十二日東海丸ニ投シテ全島ヲ退去シ二十七日標品ヲ携帶シテ共ニ歸京セリ玆ニ早春七十二日間滯島中調査セシ大要ヲ報告シテ全好諸君ノ參考ニ供セントス、動物學ニ近縁ナキ事項ハ本題ノ下ニ加フベキモノニアラズト雖モ特ニ注意スベキ該島ノ特員邦人ノ義務トシテ記憶セザルベカラザル而カモ特色奇觀アル該島ノ沿革且ツハ異種雜居ノ狀態ヲナセル該島ノ習俗ハ未タ普ク内地人ノ知ル所ニアラズ故ニ余ハ其大略ヲ述ベテ前篇トナシ後篇ニ於テ余ノ專務トシテ調査セシ概

小笠原島動物界

況ヲ述ベテ動物學上ノ批評ヲ試ミントス余ガ本文ヲ草スルニアタリ余ハ先該島々司北澤正誠氏並全島水產課主任小石川竹二郎ヨリ優待補助ヲ受ケシヲ記セザルベカラズ且ツ標品ノ過半ハ關口氏ノ採集ニ係ルコトハ特ニ玆ニ報ゼザルベカラズ

小笠原島ハ南北凡ソ七十海里ノ一線ニ並列セル三群二十餘個ノ小島ヨリナリ(北緯二六度三二分ニ起リ二七度四三分ニ終リ東經一四二度五分ニ起リ 全十五分ニ終ル)子午線ノ經過ハ東京ニ比スレバ十分時ノ差アリ(東京地理ハ東經一三九度四五分一七秒)而シテ中群父島二見港 (全港南岸納涼山ハ北緯二四度二分一七秒)ニ至リ南々東五百三十六海里ナリ該列島中第一ノ大島父島ハ東西一里二十四丁南北凡二里ニシテ凡二千二百六十六丁歩ノ地圖面積ヲ有スルヲ以テ他島ノ大小ハ左ニ揚クル第一圖ニヨツテ其一班ヲ推スベシ

山峯ノ夥多ナルト其低キトハ内地諸島ニ稀ニ見ル所ニシテ夥多ナルガ故ニ溪谷多ク低キガ故ニ平野多シ父島一島ニ於テモ小峯十ヲ以テ數フベク而シテ全列島中最高ノ乳

明治廿七年六月十五日

小笠原島動物界

房山(母島ニアリ)ト雖モ千四百七十一呎ニ過ギス最大ナル父島ノ最高點旭日ノ頃ハ僅カニ八百八十六呎ニ達スルノミ故ニ父島列島ノ如キ遠クヨリ之ヲ望メバ洋面一岡丘ノ浮ブガ如キ觀アリ、港岬夥多ニ大船ノ碇泊ニ便アリ隨テ砂濱ニ富ム彼ノ有名ナル二見港(Port Lloyd)ノ如キハ東西二十余町南北凡二十五丁ニ達シ水深ク礁少ナク寄港ノ船舶歲々相加フル故ナキニアラズ該港ヲ抱ケル父島ハ單ニ一良港ヲ構成スルガ爲メニ存スルノ觀アリ而シテ採取家ノ特ニ注意ヲ要スルハ潮水満干ノ差二尺乃至三尺ニ達シ大潮ノ期毎ニ沿岸數十丁歩ノ珊瑚礁ヲ曝露スルノ奇觀ナリ、余ハ尙其地形ニ就キテ一言スベキヲアリ余昨年中夏大野浦丸ニ乗シテ伊豆群島ヲ巡見シ今年初メテ此地ニ到ルヤ比較的島形ノ過大ナルニ驚ケリ思フニ數多ノ列島連立シ幾多ノ港岬相對シ峯多クシテ山低キハ實ニ過大ニ現セシムル主因ナルベシ八丈島ノ如キ其實積ハ父母兩島ヲ合スルヨリモ大ナリト雖モ孤島ニシテ港岬ナク山高クシテ峯少ナク其一島ヨリモ小ナルヲ覺ユ地形ハ眞其

眺望ヲ左右スルヲ甚シキモノナリ

全列島新火山岩ヨリナリ曝露セル峻巖ト分解セル赤土交々相接シ之レニ蕃殖セル檳榔子(二種)、野榔子、たこノぎ、たこづる、へび、大桑、はすのはざり、いちび、たまなノ如キ或ハ近代移植セシ甘蔗、鳳梨、ばな、れもん、ごものき、まにら等ノ如キ尤モ顯著ナル熱帶植物ニシテ而シテ過半ハ内地ニ其比ヲ見ザルモノナレバ全島ノ眺望一瞥自ラ別天地ヲナセリ

該島ニ在テハ冬期ト雖モ攝氏七度ヨリ降ラズ暑氣非常ニ長シト雖モ卅四度ヲ出デス島廳ノ測定ニヨレバ左ノ如シ

明治二十一年 最高 三三、一度 七月十八日

最低 七、二度 一月二十一日

明治二十二年 最高 三三、四度 七月二十六日

最低 一〇、度 一月二十八日

明治二十三年 最高 三三、四度 七月四日

最低 八、五度 二月十日

明治二十四年 最高 三三、度 七月十一日

動物學雜誌第六十八號

最低 七、九度 二月十日

(以上ハ最高最低寒暖計ヲ用テ海面上ニ二、二めーとるノ場所ニテ測定セシモノナリ二十五年以降ノ測定ハ疑點アルヲ以テ省ク)

余輩亦定所(室内)定刻ニ於テ毎日六回以内天象ト温度ヲ測定セリ滯島ノ期短クシテ固ヨリ充分ナラズト雖モ又其一班ヲ窺フニ足ルベシ唯余輩早春七十二日間滯島中十四日幾回ノ驟雨ト五日幾回ノ強風ト一回ノ激雷ト一回ノ微震ト一回ノ降霧ト一回ノツナミニ遭遇セシハ聊注意ノ價値アルガ如シ、該島住民ノ特ニ恐怖憂慮セルモノハ秋期ノ颶風ニシテ甚シキハ山野ノ草木爲メニ大半仆枯シ農夫等全ク其産業ヲ失フニ至ルト云フ明治二十四年ノ被害ノ如キハ今尙各所ノ枯林ニヨツテ追想スベク眞ニ其言ノ過大ニアラザルヲ知レリ然レ其浚流ノ饒ニシテ水旱ノ憂ナク且ツ自在ニ井水ヲ得ルノ一得ハ以テ之ヲ贖フニ餘リアリ

以上ハ該島風土ノ大略ニシテ余ハ轉シテ該島發見以來沿革ノ大要ヲ述ベテ先人ノ偉績ヲ傳ヘザルベカラズ而シテ

小笠原島動物界

之レヲ記憶スルハ讀者諸君ノ義務ナリト信ズ(但シ材料ハ余ノ見聞ト島嶼編ニヨル)

今明治二十七年ヨリ遡ルコト三百〇二年前即チ後陽成天皇文祿二年癸巳(七月二日ト云フ)ニ於テ此有望ナル群島ハ一介ノ俊雄小笠原民部ノ小輔貞賴ニヨツテ發見セラレタリ貞賴ハモト武門ニ生レ祖父長時ノ世ニ到ルマテ信州深志ノ城主ニシテ貞賴ハ父ト共ニ信長秀吉家康ノ三雄ニ歷仕シ朝鮮ノ役ニハ軍檢使タリシナリ而シテ彼ガ空前ノ偉功ハ家康ノ勸告ニヨリ自領ヲ求メテ茫々タル南海ニ向テ探檢シタル雄圖ノ結果ナリシナリ貞賴初メテ此島ニ到ルヤ二標ヲ建テ、己レノ姓名ヲ記シ以テ我版圖ヲ明カニシ其功ニヨリテ名譽ナル島名ヲ賜フノ榮ヲ得爾來其子長直ノ世ニ到ルマデ屢渡航シテ此無人ノ富土ヨリ奇貨ヲ輸入セリ後年ニ及ビ幾多他邦ノ船艦此地ニ到來シ又續々外人ノ移住アリシト雖モ明治九年萬國ノ承認ヲ經テ我屬島ト決セシハ主トシテ貞賴ノ功ニ因ラズンバアラズ(明治二十五年七月二日島民墓ヲ貞賴發見ノ三百年紀念式ヲ行フ爾來毎年年例トナス)

明治廿七年六月十五日

小笠原島動物界

第六卷

一九八

要 摘	8.P.M.	6.P.M.	2.P.M.	12.	8.A.M.	6.A.M.	時 月 日	要 摘	8.P.M.	6.P.M.	2.P.M.	12.	8.A.M.	6.A.M.	時 月 日
	14° セ.シ.	—	—	21° セ.シ.	15° ,,	14° ハ.ナ.N.	28/2		13° ク.ナ.	—	—	18.5° ク.N.	—	16.7° セ.	10/2
	—	—	—	—	—	9.5° セ.シ.	1/3	風 テ 概 和 シ	20° セ.シ.	21° セ.	23° セ.	22° セ.	18.5° セ.	21° セ.	11/2
	17° ビ.雨	18° ビ.雨	—	—	—	16° セ.シ.	2/3	風 雨 午 后	19.5° ク.	20.5° ク.	22.5° ク.	23.6° セ.	22.7° セ.	21° セ.	12/2
	22° セ.シ.	22° ハ.シ.	—	25.9° セ.シ.	21.5° セ.シ.	21° セ.シ.	3/3		14° セ.シ.	15° ク.シ.	20.5° ク.	18.2° 風	16° ク.風	15.5° ハ.W.N.	13/2
	22.5°	22°	27.5°	27° セ.シ.	22° S	21° セ.S.W.	4/3		14° セ.シ.	—	—	22° セ.シ.	17° セ.シ.	14.9° ク.シ.	14/2
	雨 止	24° ビ.雨	—	26° ク.W.	22.5° セ.S.W.	22° ク.W.	5/3		—	18° セ.シ.	24° セ.シ.	24° セ.シ.	18° セ.シ.	16° セ.シ.	15/2
	23° セ.シ.	23.5° ク.	—	ク.シ.	23.5° ハ.	22° ク.	6/3		—	18° ク.シ.	—	18.8° ク.シ.	—	12° セ.シ.	16/2
	—	22.5° ク.シ.	—	25.5° 霧.シ.	22° 霧.シ.	21° 霧.シ.	7/3		21° セ.シ.	—	26.5° セ.シ.	25° セ.シ.	20° セ.シ.	15° セ.シ.	17/2
	22° セ.	22.5° セ.	—	—	22.5° セ.	20° セ.	8/3		—	20° セ.シ.	26° セ.シ.	25.5° セ.シ.	20.6° セ.シ.	19.9° ビ.雨	18/2
	22.6° ハ.シ.	23° ク.シ.	—	26.4° セ.シ.	23.2° ハ.シ.	21° セ.シ.	9/3		—	17° セ.シ.	—	22° セ.シ.	18° セ.シ.	—	19/2
	20° セ.シ.	23° セ.	—	28° セ.シ.	23° セ.シ.	21° セ.	10/3	震 分 十 時 前 微 五 三 八	—	17° セ.シ.	—	22° セ.シ.	16.5° セ.シ.	15.5° セ.シ.	20/2
	20° ク.W.	20.4° ナ.W.	雨	雨	ク	22° ク.W.	11/3	雨 暴 午 後	13.5° ハ.ガ.	15° ハ.ガ.	—	—	20° ハ.シ.W.	17.5° ク.疾.W	21/2
	—	18.5° ク.シ.	23° セ.	23.2° セ.	20° ナ.N.	18° ク.セ.	12/3		15° ク.シ.	15.5° ク.シ.	—	18° ハ.シ.	13.5° ,,	14° ク.ナ.N	22/2
	16° ハ.ナ.W.	16.4° ハ.ナ.W.	22° セ.	22.5° セ.	17.5° ハ.シ.	12° セ.シ.	13/3		—	17° ク.シ.	—	22° セ.ナ.	17.5° ク.シ.	15° セ.シ.	23/2
	17.5° ク.ハ.シ.	ク.ハ.	ハ.ハ.	19.0° ク.ハ.	16.8° ク.ハ.シ.	15.5° ハ.シ.	14/3		19.8° セ.ハ.シ.	—	—	23° セ.シ.	18° ,,	16° セ.ハ.シ.	24/2
	18.5° セ.ハ.シ.	ク.ハ.シ.	26.5° ハ.ハ.シ.	26° セ.ハ.シ.	18° ク.ハ.シ.	17.5° ク.ハ.シ.	15/3		17° セ.シ.	17° セ.シ.	—	—	18° ビ.雨	17° ク.ハ.シ.	25/2
	21° セ.	22.1° セ.シ.	26.5° セ.ハ.シ.	26° セ.ハ.シ.	21.9° セ.ハ.シ.	19.5° セ.ハ.シ.	16/3		—	19.9° ,,	2.3° ,,	23.5° ,,	17.5° ,,	12° セ.シ.	26/2
	—	22.1° ク.シ.	セ.	28.9° セ.	24° セ.シ.	19.5° セ.シ.	17/3		15.5° ク.ハ.シ.	16.4° ク.ハ.シ.	—	20° ,,	18° セ.ハ.シ.	17° ク.ハ.シ.	27/2

動物學雜誌第六十八號

小笠原島動物界

要 摘	8.P.M.	6.P.M.	2.P.M.	12.	8.A.M.	6.A.M.	時 月 日	要 摘	8.P.M.	6.P.M.	2.P.M.	12.	8.A.M.	6.A.M.	時 月 日
	—	23° "	23.5° te. S.	25.2° te. E.S.	21.5° te. F.W.	18.5° te. F.W.	5/4	雨	18.5° テ. W.	19.9° テ.	24.5° 雨. S.	26° テ. S.	24° テ. S.	22.5° テ. S.	18/3
	—	21° te. S.	21° te. S.	—	—	19.5° テ. S.	6/4		17° te. S.	te. S.	ハ.	21.9° テ. E.N.	—	17.5° テ. E.N.	19/3
	—	28.2° ハ. S.	27.5° テ. S.	28.2° ハ. S.	—	19° ハ. S.	7/4		19.5° ハ. S.	19° テ. W.	—	21.6° テ. S.	20° ハ. S.	17° テ. S. W.	20/3
	—	—	—	—	—	22° テ. S.	8/4		18° ハ. W.	19° テ. W.	テ. S.	24.5° テ. S.	20° ハ. S.	19.5° テ. S.	21/3
	—	—	—	—	—	23° テ. S.	9/4		17.5° ハ. W.	18° テ. E.	ハ.	23.5° テ. E.	18° ハ. E.N.	18.5° ハ. E.N.	22/3
	—	23.5° テ. S.	—	26.8° テ. S.	—	21° テ. S.	10/4	ミ ナ リ ナ リ	18° テ. E.	18° テ. E.	—	—	18.3° テ. E.	17.9° テ. E.	23/3
	—	23.5° テ. S.	—	29.5° テ. S.	—	19° テ. S.	11/4		18.5° テ. E.	18.5° テ. W.	18.5° テ. W.	18.1° テ. W.	18.3° テ. E.	18° テ. E.	24/3
	—	22° テ. S.	23° 雨	23° "	24° "	22.5° テ. S.	12/4		19.5° 雨. E.	19.5° 雨. E.	雨. E.	18.8° 雨. E.	18.5° 雨. E.	18.1° 雨. E.	25/3
ナ. E.	23.2°	23.5° テ. S.	—	24.1° 雨.	23° 雨.	22° テ. S.	13/4		20° テ. S.	21° テ. E.	—	24.5° テ. W.	19° テ. E.	18.5° テ. E.	26/3
—	—	22.5° テ. S.	—	25° 雨.	24° テ.	23° テ. S.	14/4		21° テ. E.	21.5° テ. E.	—	24.5° テ. W.	23° テ. E.	20° テ. E.	27/3
—	—	—	—	23° 雨.	21° テ. W.	20° ハ. W.	15/4		23° テ. S.	23° テ. S.	24° テ. S.	22° "	22.5° テ. S.	22° テ. E.	28/3
—	—	—	—	25° テ. W.	20° テ. W.	19° テ. S.	16/4		—	18.5° テ. W.	—	22° テ. W.	—	19° ハ. W.	29/3
—	15°	20.1° テ. N.	24° テ. N.W.	25° テ.	25° テ. S.	19° テ. S.	17/4		—	18.2° テ. W.	24° テ.	24° テ. W.	20.1° テ. W.	18.2° ハ. W.S.	30/3
—	21.2° 雨. N.	—	—	—	21° テ. N.	19.2° テ. N.	18/4		20.5° テ. S.	21° テ. S.	24.5° テ.	25° ハ. W.S.	21° ハ. W.S.	18° テ. W.S.	31/3
—	—	—	—	25.6° テ.	21.5° テ. E.	19.3° テ. E.	19/4		10° "	21° テ. S.	—	—	22.5° テ. S.	19° テ. W.S.	1/4
—	—	—	—	25.5° テ.	—	19.5° テ. S.	20/4	•	20° "	20.5° テ. S.	—	—	21.5° テ. E.	18.5° ハ. S. E.	2/4
—	23.5° "	25.5° テ. S.	27° テ. S.	—	—	22° テ. S.	21/4		18.5° テ. E.	20° テ. E.	23° テ. E.	24° テ. E.	21.5° "	19.5° テ. E.	3/4
—	—	—	—	—	24° テ. S.	22° テ. S.	22/4		19° テ. E.	—	—	23.5° テ. E.	21.5° テ. E.	19.5° テ. E.	4/4

第六卷

一九九

明治廿七年六月十五日

小笠原島動物界

第六卷

二〇〇

表中 セハ晴、ビハ微風、ワハ和風、ナハ軟風、ユハ雄風、疾ハ疾風、

キハ強風、ボハ暴風、シハ靜、クハ曇、ハハ半晴、N S E W

ハ北南東西風、一ハ不在ニテ測定セサルヲ示ス

享保十五六年ノ頃貞頼ノ曾孫宮内貞任曾祖父ノ志ヲ繼デ
渡航セシト雖モ遂ニ歸ラズ（或曰フ貞任ノ姪長成享保十
六年大坂ヨリ出船シ島中ノ產物ヲ搭載シ歸ルト）延寶三
年ニ及ンデ牛込忠左衛門島谷市左衛門等將軍家綱ノ命ヲ
受ケテ此島ニ到リ滯島百日許地ヲ測リ圖ヲ製シ地名ヲ附
シ三祠ヲ營ミ且家鷄五隻ヲ放チ（近年マデ存セシ野鷄ノ
祖）產物ヲ携提シテ十八日間航海ノノチ六月二十二日下
田ニ歸ル此實ニ第二回ノ探檢ナリ

寛政ニ至ツテ再ビ本草家田村元長ヲ派遣シタレドモ果サ
ズシテ返リ天保九年羽倉外記奮テ探檢セシト雖モ亦達セ
ズ然レモ承應ヨリ嘉永ノ初年ニ到ルマデ前後九回（外國
移住民ノ記憶ニ止マルモノ）内地漁民ノ漂着アリ（今尙
父島奥村ニ冥福ノ碑アリ）テ五年乃至二十年間滯島セシ
モノモ少ナカラズト雖モ船員ノ多數ハ毎時早晚歸國セシ

ヲ以テ内地人ノ注意ヲ促セシコ亦少々ニアラザルベシ降
テ文久二年ノ暮幕府外國奉行水野筑後守忠徳並服部歸一
等ニ命ジ汽船咸臨丸ヲ放チテ第三回ノ探檢ヲナサシム水
野等八丈島民若干ヲ移植シ島長ヲ置キ碑ヲ建テ（今尙ホ
存ス）テ歸ル爾來屢々内地ト交通シテ百事漸ク其緒ニ就
キシト雖モ内外ノ多故ニ際シ僅カニ一年ヲ過ギスシテ幕
府此島ヲ放棄シ文久三年五月悉ク吏民ヲ歸載セリ而シテ
當時ハ已ニ多數外人ノ移住アリタルナリ

明治八年十一月維新ノ政府田邊太一等ヲ遣シ百事ヲ處理
セシメ遂ニ萬國ノ承認ヲ經テ我版圖ニ歸ス而シテ外邦ノ
移民ハ漸次歸化シテ明治十五年以降又一人ノ外民ナシ
該列島ハ本來種々ノ生産ニ富ムヲ以テ爾來頻年人口ノ増
加ヲ來シ最近七ヶ年ニ於ケル人員並ニ本邦大船ノ入港統
計實ニ左ノ如シ

明治二十年	二三八戸	一〇〇〇人	男	六二五	女	三七八
全二十一年	三七八戸	一四〇〇人	男	八八九	女	五一二
全二十二年	三八〇戸	一六五〇人	男	一〇二一	女	六二九

動物學雜誌第六十八號

全	二十三年	四八四戸	一九九一人	男一〇四五	女	九四六
全	二十四年	五六七戸	二一六八人	男一三〇七	女	八六一
全	二十五年	五八九戸	二四二五人	男一三四二	女	一〇八三
全	二十六年	五三九戸	二二七一人	男一三四六	女	九二五

明治二十年	漁船四	帆船三	日本形船一二
全 二十一年	全 八	全 九	全 七
全 二十二年	全 八	全 二四	全 二
全 二十三年	全 八	全 二九	全 二
全 二十四年	全 八	全 一九	全 〇
全 二十五年	全 五	全 一六	全 〇
全 二十六年	全 六	全 一〇	全 一二
全 二十七年	統計未遂ナリト雖モ本島並硫黃島ニ航海スル漁帆船ノ外一月以來三月上旬迄ニ南洋貿易ノ爲メ已ニ五艘ノ日本帆船二見港ニ寄港出帆セシ事實ハ聊注意ノ價值アリ		

以上ハ該島ニ於ケル本邦志士ノ遺績ニシテ其他外人ノ來往亦注意ヲ要スベキモノアリ外人來島ノ年期記錄ニ明ナルモノ、概略ハ左ノ如シ

文政六年(西曆千八百二十三年)米國鯨獵船母島ニ着シ船

小笠原島動物界

長ノ名ニ因ミテ Coffin Island ノ島名ヲ附シテ去ル

全七年英國鯨獵船父島二見港ニ碇泊シ記ヲ遺シテ去ル

全十年英國鯨獵船難破シテ水夫二名此島ニ留マリシガ八

ヶ月ヲ經テ更ニ全國測量船入港シ地名ヲ附シ領略ノ旨ヲ

記シ國旗ヲ遺シテ去ル

全十一年露國海軍ノ士官來島シテ魯領ト稱シ又記ヲ遺シ

テ去ル其他西人葡人和人等前後相接デ來島シタレドモ詳

ナラズ

天保元年(西曆千八百二十年)伊人一名米人二名英人一名

噠人一名相謀リ布哇ノ男女十七名許ヲ引率シテ父島扇浦

ニ來リ初メテ移住セリ

全六年英人一名(今尙生存)男女六名ヲ伴ヒ母島沖村ニ移

住ス蓋シ母島移住ノ嚆矢ナリシナリ

嘉永六年(西曆千八百五十二年)彼ノ有名ナルペリ來泊

シテ島民ニ勸告シ殖民政府ヲ起サシメ軍艦ノ寄港毎ニ相

音信シテ陰然該政府ノ顧問トナレリ現今山野ニ飼養セル

山羊ハペリノ放養セシモノ、子孫ナルコトハ又一種ノ

明治廿七年六月十五日

小笠原島動物界

第六卷

二〇二

奇跡ナリ然レドモ殖民政府ハ永續セザリシナリ

文久元年ノ暮水野等ノ探檢ヨリ全三年吏民總退去ニ到ル

マデ記稍詳ニシテ僅々一ケ年餘ニ過キズト雖モ米國獵船

九隻三乙島獵船二隻露國漁船一隻入港ノ記ヲ存ス

文久三年邦人退去以來又明細ノ記ナク只移住外人ノ記臆

ニヨリ記載セシ記錄ニヨレバ明治八年十二月迄ニ五十艘

ノ大舶入港セシコハ疑ナキガ如シ而シテ其多數ハ三乙島

船ニシテ米船之ニ亞キ又一二軍艦モ寄港セルガ如シ

明治九年我屬島ト確定セシ以來本年ニ至ルマデ寄港ノ外

船ハ左表ノ如シ

明治九年 未詳

全 十年 二艘 米獵一、英商一、

全 十一年 六 蘭商三、米獵一、露軍一、米商一、

全 十二年 四 米獵三、蘭商一、

全 十三年 四 米獵二、米軍一、英商一、

全 十四年 四 英商一、蘭商一、米軍一、獨商一、

全 十五年 三 露獵一、獨獵一、米獵一、

全 十六年 五 英獵三、露軍一、米獵一、

全 十七年 八 獨獵二、米獵四、英獵二、

全 十八年 八 米漁一、獨獵三、米獵二、英獵二、英軍一、

全 十九年 四 獨獵一、英商一、米獵一、英獵一、

全 廿六年 一八 米獵一四、英獵三、露軍一、

全 廿七年 二五 米獵一九、英獵六

(但シ二見港ハ公開港ニアラザルヲ以テ獵船ノ出入等

ハ公文ニ無之明治二十年以來ノ記ハ余ノ詮索ノ際島廳

ノ倉底ニアリテ轉寫スルコヲ得ザリシナリ二十六年

度ハ小石川氏ノ記臆ニヨリ二十七年

度ハ二月ヨリ三月迄
ノ員數ナリ)

外民ノ初メテ此島ニ移住セシハ實ニ今明治二十七年ヨリ

遡ルコト六十五年前ニシテ此間種々小説的ノ歴史ヲ經テ

今日ニ到レリト雖モ茲ニ記スルノ要ナシ當初ハ僅カニ五

名ノ白人ト十七名ノ黑人ニ過ギス爾來又多少ノ出入アリ

シト雖モ要スルニ漸次人員ノ増加セルハ事實ニシテ唯其

緩漫ナルノミ其年次人員左ノ如シ

動物學雜誌第六十八號

天保元年(西曆千八百三十年)	三二人	
嘉永六年(西曆千八百五十二年)	三一人	
文久二年(西曆千八百六十三年)	五五人	
明治六年(西曆千八百七十三年)	七二人	
全 八年	七四人	
全 十年	六二人 (男三一 女三〇)	戸數 一三
全 十二年	六七人 (男三三 女三三)	戸數 一三
全 十四年	五六人 (男二七 女二九)	戸數 一五
而シテ其故國ヲ問ヘバ米人アリ英人アリ佛人アリ獨人アリ 葡人アリ伊人アリ噠人アリ布哇人アリ西班牙人アリ加 奈太人アリ南洋人アリ而シテ全歸化以來ノ人員ハ左ノ如 シ		
明治二十年	七二人 (男三七 女三五)	戸數 二〇
全 二十一年	七六人 (男三八 女三八)	戸數 ?
全 二十二年	八一人 (男四一 女四〇)	戸數 ?
全 二十三年	九三人 (男四八 女四五)	戸數 二三
全 二十四年	八七人 (男四一 女四六)	戸數 二二

小笠原島動物界

全 二十五年 九四人 (男四五 女四九) 戸數 二二
 全 二十六年 八七人 (男四一 女四六) 戸數 二三
 外國移住民ハ本島ノ生産ニ於テ非常ノ功績アルモノニシ
 テ近年該島第一ノ生産源タル甘蔗ノ如キ或ハ鳳梨、ぼな
 ん、れもんノ如キ徒レモ彼等ノ移植セシモノニシテ同島
 莫大ノ特産正覺坊捕獲ノ如キ(後篇ニ詳ナリ)亦彼等ノ遺
 法ナリ且ツ該島民ノ一般ニ使用セルかのー(後篇ニ詳ナ
 リ)ノ如キ實ニ千八百三十年噠人チャールズ、ジョンソ
 ンノ創製ニシテ其功績永ク傳ヘザルベカラズ
 余ハ島廳ノ記録ニ原キ已ニ沿革ノ大略ヲ述べタレバ更ニ
 余ノ現在目撃セシ生活ノ習俗並寄港獵船ニ就キ其二三ヲ
 掲ケテ一段落トナシ次テ後篇ニ於テ余ノ専務トシテ觀察
 セシ動物界ノ概況ヲ報スベシ
 現在小島原島民ノ過半ハ八丈島人ニノ内地各州ノ農商之
 ニ亞ギ而シテ歸化人ハ全數ノ二十分一ニ足ラス然レモ邦
 人ニ就キテハ唯衣食住ニ於テ多少歸化人ニ感化セラレタ
 ルノ外奇トスベキモノナキヲ以テ専ラ歸化人ニ就キテ讀

明治廿七年六月十五日

小笠原島動物界

第六卷

二〇四

者諸君ノ注意ヲ惹カントス

歸化人中壯幼ナルモノハ能ク邦語ヲ談スレドモ彼等ハ一般ニ邦人ト交リ厚カラズ自ラ隔絶セルヲ以テ彼等ノ間ニ又訛轉ノ英語流通セリ幼少ナルモノハ皆學校ニ學ブヲ以テ稍邦字ヲ書シ得ルト雖モ英字ヲ解スルモノハ殆ンド稀ナリ、男子ハ皆粗末ナル洋服(彼ノ外國獵船ニ就テ交換或ハ購求セシモノ多シ)ヲ着ケ帽ヲ戴クト雖モ靴師ナケレバ跣足ニテ能ク巍々タル珊瑚片上ヲ徒歩ス婦女劣等ノモノ間和服ヲ着クルモノアリト雖モ多クハ粗末ナル故國式ノ被服ヲ纏ヒ頭上多クハ被ナシト雖モ往々又風呂敷ヲ用ユルモノアリ跣足或ハ下駄ヲ突チ禮ニハ多ク足袋ヲ用ユ又一種ノ奇風ナリ一二教育アル優等ノ男女アリト雖モ彼等ハ例外ニシテ評スルニ及バス、食品ノ如キ其調理ニ於テ多少邦人ト差アリト雖モ其材料ニ於テハ同物ナリ唯果樹ノ如キハ内地ニ比ナキヲ以テ内地人ノ食ニ較ブレバ稍差アルヲ見ルノミ、彼等ノ家屋ハ内部ノ構造ハ内地劣等ノ家屋ニ稍似タリト雖モ該島特産ノ桑、いちび、きり、ひで、

てつノ如キ雜多ノ材ヲ用イ竹ニ代フルニ野椰子ノ引割ヲ以テシ屋ヲ庇フニ檳榔子ノ葉ヲ以テシ同葉ヲ以テ編シタル繩ニテ巧ミニ之ヲ綴リアリ室内敷クニ疊ナク屋根ハ大抵葺卸シニシテ秋期ノ颶風ヲ凌クニ適當ナリト云フ尋常ノ家屋僅カニ二三十金ヲ以テ新營シ得ルヲ以テ其簡易推スベシ、屈強ナル歸化人ノ壯丁ハ能ク銃ヲ用ユルヲ以テ獵船ニ聘雇セラレテ遠ク北海ニ向ヒ殘餘ノモノハ正覺坊ノ捕獲(婦人亦能クス)ト牧畜ト食用農作ニ就事セリ商ヲ營ムモノナリ甘蔗、藍、鳳梨ノ耕作ノ如キ利益アル事業ハ殆ンド悉皆内地人(八丈人ニアラズ)ノ掌握ニ歸シ財ハ漸ク人手ニ落チ唯僅カニ祖父ノ餘澤ニ存生スルノミニシテ稍末路ノ觀アリ

余等今回ノ渡航ハ幸ニ好期ニ際シ該二見港ニ寄泊セシ外國獵船ハ一隻ノ漏ナク目撃セリ本年ニ在テハ二月上旬ヨリ總計二十五隻ノ碇繫アリテ徒レモ十日以上茲ニ泊シ港内ニ林立セルモノ全時ニ十一隻ノ多キニ及ベルコトアリ然レモ僅カニ五十餘日ヲ經テ三月二十四日ニ到リ港内又

動物學雜誌第六十八號

影ナキニ到レリ一隻ノ鯨獵船(二本橋船員四十餘名)ノ外大抵四十乃至六七十噸ノスクーナーニシテ四五隻ノボートヲ備ヘ船員凡十五六名乃至廿四名ヲ限リトセリ就中 J. Josephine ノ如キハ僅カニ十六噸船員七名ニシテ押送船大ニ過ギズ而シテ其故國ヲ問ヘバ遠ク北米タコマニシテ其指ス所ハ遙カニ北東露岸ナリ我國ノ航海者タルモノ鑑ミル所ナカルベカラズ船員ニ二種アリ其一ハ銃ヲ取リ稍資アリテ又事理ヲ辨ズ其二ハ尋常ノ水夫ニシテ多クハ教育ナク禮法ナク眞ニ昔時ノ博徒モ雷ナラズ、船員ノ言ニ徴スルニ昨暮米岸ヲ發シタル獵船六十餘艘ニシテ其多數ノ目的トスル所ハ日露ノ東海岸ニアリ能ク獵スルモノハ一艘ニシテ二千餘ノをつとせいと五十ノらつこヲ獲而シテ一介ノらつこハ六白金ニ價スト問フ毎ニ其答フル所大差ナシ蓋シ大過ナキモノニ似タリ、盛ナリト云フベシ、二見港岸ノ狡兒等此珍客ヲ弄シテ奇利ヲ博シ每艘二三三百金ヲ吸收ス此等外客ノ出入頻繁ナルハ多少ノ利アルハ疑ナシト雖モ市中ハ醉漢ノ絡繹橫行スル所トナリ時ニ或ハ

小笠原島動物界

格闘シ狼藉混雜ノ奇觀ヲ現スルノミナラズ更ニ有害ナルハ遊食ノ民ヲ増シ又歸化婦女ノ不倫ヲ醸スニアリ彼ノ歸化人等ガ体格ノ徒ラニ莊強ナル故國人ヲ敬愛シテ邦人ヲ輕侮スルガ如キハ自然ノ情ニ齒牙ニカクルニ足ラズ余ハ本篇ヲ結ブニ迨ビ左ニ前文遺漏ノ小表數項ヲ加ヘテ餘波トナサン

教

育

船

正覺坊

大村校(父)扇浦校(父)沖村校(母)北村校(母)

明治二十四年末調生徒	18+19	25+19	35+20	22+7
明治二十五年末調生徒	27+20	28+16	33+21	19+6
明治二十六年末調生徒	24+20	33+25	47+24	21+17
明治十年三月扇浦ニ創設 表中數字ノ前項ハ男生後項ハ女生數				

明治二十四年末調	2	0	156
明治二十五年末調	1	1	150
明治二十六年末調	0	1	168
風帆 五十石以上積 五十石以下積			

明治二十年	1697	頭	明治二十二年	783	全
明治二十一年	1097	全	明治二十三年	1496	全

第六卷

二〇五

明治廿七年六月十五日

イスのアブラムシの話

第六卷

二〇六

補獲高	明治二十四年	553 頭	明治二十六年	1011 頭
高獲	明治二十五年	1308 全		

農産收穫高	甘蔗	玉蜀黍	藍	甘藷	香蕉	珈琲
明治二十五年	1360008 _斤	805 _斤	5256 _斤	2431 _斤	7963 _斤	0
明治二十六年	3731460 _斤	538 _斤	9975 _斤	24333 _斤	14190 _斤	10 _斤

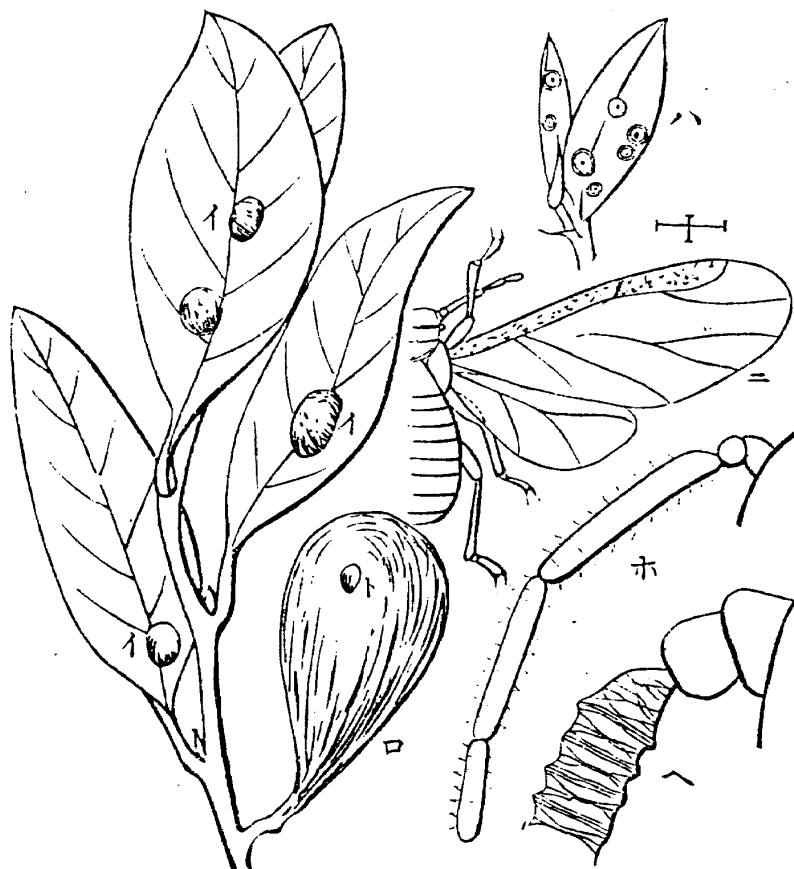
收穫高	草綿	里芋	檸檬	鳳梨	煙草
明治二十五年	1205 _斤	3499 _斤	6033 _斤	3850 _斤	36 _斤
明治二十六年	620 _斤	36980 _斤	6640 _斤	4470 _斤	50 _斤

牧畜	明治二十五年末調	牧牛二〇〇	農用牛三一四
明治二十六年末調	牛六四五	外俾及媒島ニ山羊二五、綿羊八、豚四五〇、鶏二五	其他多數牧畜不詳

● イスのアブラムシの話

名 和 靖

春季蚊母樹^{イヌ}の葉面に、イ及びロの如き疣を生じ其内に無數のアブラムシ棲息し夏季の頃羽化して疣の下面に孔を穿ちて飛散するを常に見るも未だ曾て發生の最初に注意し



たるとなし然るに昨廿六年四月十四日ハの如く僅かに發芽したる蚊母樹を見るに已に葉面の所々に小疣を生ぜり此の際顯微鏡にて些細に其疣を驗するにアブラムシの幼虫一頭宛疣の凹所に棲息するを知れり爾後屢々是を驗